

駒ヶ根市文化財

名称	役行者像
種別	民俗・芸能
所在地	中沢大曾倉・下平
説明	<p>大曾倉から新山へ通じる山道の分かれ、「ヨシダイラ」にある。石質は花崗岩、総丈102cmの座像である。左手には経巻らしいものを持ち、顔は面長、造りは極めて良好といえる。高さ21cmの四角の台座には、年号が刻んであり、享和3年(1803)12月と判読できる。</p> <p>土地の人々は、この石像を「古道(ふるみち)の行者様」と呼んでいる。</p> <p>役行者(えんのぎょうじゃ)は、舒名(じょめい)6年(634)大和国に生まれ、名を小角(おづぬ)という。山に伏し、野に寝て靈験を修得する修験行者の一人であったが、後に仏教系の一宗派、修験道の成立とともに、その道の大先達と仰がれてきている。全国各地の山々に、役行者との関係を伝える話が多い。</p> <p>大曾倉のこの地に、どのような経緯から行者像が祀られているのだろうか。山伏がこの辺で修業した形跡があるということは聞かないが、古老の語るところによれば、昔四国西国を回ってきた人が、旅の途中この地で病を得て木下家で亡くなった。その人の供養のために建てたものであるという。</p> <p>古代から、山と人間の生活は、切っても切れない関係であった。生活の糧を求めて、山に入った多くの村人達が、行者様の供養と併せて、山の神々の怒りにふれぬよう、お参りをして守り続けてきたものではないだろうか。</p> <p>この他、市内の下平長春寺門前にも、役行者の石像がある。これはかつて北割一区、馬場稻荷神社にあったものである。</p>



大曾倉の役行者像



下平 長春寺の役行者像